

4 月度研究会開催!

(文責 荒島 & 吉田)

ACE北海道支部今年初めての研究会が4月25日(土)札幌大学(札幌市豊平区西岡)のマルチメディア実習室において開催されました。昨年のドコモ研究会もそうでしたが、30名近くが集う、盛大な会になりました。

1. 支部長挨拶(武田)

いろいろな人の出会いを期待して「北海道の教育と情報フォーラム」ということにした。

去年はドコモでモバイルをやったが今回は札大で、ここは地域の教育という取り組みに熱意を持っていると聞いている。学校が地域に開かれた存在であることが必要とされていて、どこにも負けない地域の情報集積の場になっていけると確信している。

2. 札幌大学あいさつ(佐藤勝彦先生)

文化学部にも所属しています。どこかで聞いた名前だと思ったら上越の小川先生に誘われたのだが、CAIの部門で別に研究会をやっていたこともあって疎遠になっていた。教育にコンピュータを利用する、ということは古くからあるテーマなのだが、金銭的な事情もあっていろいろな壁が立ちはだかっているのだが、今後は後押しをしていきたいと思っている。施設も自由に使っていただければありがたい。今後ともよろしくお願いします。

3. 自己紹介(29名参加)



立ち見も出る盛況ぶり。

4. インターネットで変わる大学(札幌大学 関谷先生)

2号館情報リテラシー演習、FORTRAN、JAVAなどに力を入れる。(平成10年度更新予定)
説明したあと見学に回りましょう。

この6号館ではインターネット演習とネットワーク構築の演習が出来る。言語教育ではC言語、マルチメディアコンテンツの実

習をこの部屋でやっている。

「インターネットで変わる大学」というこの資料はこちらの大森先生が作ったのだが、まず入学してくる学生を見ると、中学校などでパソコンの授業をやっているのが現状で、大学では就職活動などをインターネットを使ってやってきている事実もある。6000人の在学生の中でメールを使っている人間はまだ少ないのが現状ではある。大学の中ではネットワークリテラシー教育を実践しようというのがいまの現状だ。タイプ練習から入って電子メールによるコミュニケーション練習~HTMLによるホームページ作成というようなところまでこぎ着ける。この6号館に、NTサーバーが16台ある。言語教育はC言語を行っていて、別の取り組みとしてこのマルチメディア実習室がある。

入学生を見ると中学でPCは必修、小学校でも総合学習で教えている。教えられる先生は2割しかない。

大学が変わると先生が変わり、学生が変わる から 環境を変える - 学生が変わる - 先生が追いかける - 大学が変わる。学生はどんどん変わっていく - 秩序がなくなることも考えられる - ネットワークリテラシーの育成が求められる - ネットワークというところまで行かなければいけない。

電子メールで学生と教師の間が縮まっている。授業の形態が変わっている。産業情報学科は1年生と2年生しかない。いまの2年生が4年生になったときに、札幌大学としての在り方が見えてくる。

カリキュラムに関してはユーザーコンピューティング1 - プログラム論1とほぼ同じ。

プログラミング以前に必要。

地域コミュニティとしての大学の役割については現在LIVE TEXTの導入を考慮中で、地域ネットワークの中心としての役割を果たしていければと思っている。市民公開講座は以前から行っている。大学を卒業して商業系の教員になった人へのリカレント教育 - インターネットを使った卒業生への教育

(3日くらいで研修を行う。インターネット、情報リテラシーの教育)

大森先生から参加者への質問として、学校の先生は時間がとれるのか?夜なら、3日くらいなのか。ぜひ、研修の場を提供したりというようなことを目指していきたい。

(LAPT 小賀先生)

学生用マルチメディアのための設備である。今現在ではプラットフォームは関係がない。PCの他にカメラが置いてあるの珍しいかもしれない。サウンド、ムービーが必須。奥にはサウンド編集室がある。

制止画制作システム

学生A、学生B、マルチメディア。すべてネットワークでつながっている。

昨年西岡地区の方を対象に、マルチメディアの公開講座を行った。50歳以上の方が多く集まった。非常に熱心に取り組んだ。カメラで自分の写真を取り込んでマルチメディア作品を作成する。かであるが主催で講習会を予定している。複数のプラットフォームでのネットワークの構築を具現化しており、WinNTにはAppleTalkのサービスが乗っている。

5. 施設見学

6. 学校におけるネットワーク環境の構築について（北野台中 尾崎さん）

学校におけるネットワーク構築と、教職員のスキルアップを目指すために、こういったことに取り組んでいるか紹介する。

昨年まではPC9801EX-DOS3.3とTXTのソフトのみ。本年度の職員室環境はWin95 2台。LANでコンピュータ準備室のパソコンと接続。職員室にHUBを1台設置。準備室のMN128SOHOからDHCPをもらう。

しかも職員室のほとんどがDOSもしくはワープロ専用機で、この状況がまだ続くのに違いない。

「パソコンなんて嫌いだ」

「ワープロがあるじゃないか」

「なんでわざわざパソコンを使う必要があるのか」

「使い方がわからないではないか」

「覚えるのが大変でしょう」

「今まで作った文書がたくさんある」

というような抵抗があることも事実だ。

そこで、職員室の文書の一括管理などを中心に下記のような目標を掲げている。

1. 構内の文書を一元管理
2. コンピュータに関する研修の充実
3. インターネットの利用
4. コンピュータ委員会をつくる

北野台中の新しい環境

校長と一緒に管理課に交渉に行った。管理課がわからなかった。昨年度の環境はない。S-NETに全市の学校をつなぐのは難しい。

生徒が使いやすい環境を整備したい。

FDで子供のアドレスを管理する。

インターネット

高度情報通信社会に生きる力

楽しい授業、開かれた学びの場としての学校教育

- ・これからの学校はコミュニティセンターの役割をもつ
- ・学校のネットワーク環境が整備され外部との交流が可能になっていくと今までの学校は存在しなくなる。
- ・地域社会、ネットワーク上の社会の人達とに交流
- ・体育館などのようにコンピュータ施設を開放する
- ・前向きに考えながら...

7. 地上波データ放送 CLARK on ADAMS（北海道東海大学 吉村 卓也さん）

パソコンに受信ボード(23,000円くらい)をいれるだけでHTMLデータが空から降ってくる、という地上波データ放送の事業をHTBでやっている。エリアの広大な北海道にとってデータ放送は重要である。HTBのローカルコンテンツは非常に充実していて、評価が高い。電波を飛ばすことができる。利用料金は一切ない。

データ放送の概念

- ・ローカル制作しているコンテンツをテレビの枠組みで流すことが可能で、ローカル情報が生きる。
- ・全国版も見ることができる。
- ・データ放送の受信ボードが学校に入りつつある。
- ・学校のコンピュータネットワークに活用がある。
- ・電波で教材として使える。
- ・イントラネットで全員が見ることができる。
- ・変な情報が入ってこない→有害情報はない

- ・4月中に50校くらいが入る予定。(北野台中には入る予定)
- ・学校チャンネルを作るスペースがある。HTBの方で作ることが可能であるか？

・電波の教育利用

・インターネットを利用できる子供はまだまだ

・コンテンツづくりを放送局に任せておいてはいけない。みんなでコンテンツをつくり放送局に放送させる。

・受信チャンネルの問題

8. 1998年度のこねっとプラン（NTT北海道 岡島さん）

平成8年度からこねっとがはじまった。

平成10年度から新たなこねっとがはじまる。

・こねっとぶらんの概要

こねっとぶらんの発足

こねっと参加校の構成

こねっと参加校の環境



本当に立派な施設です。

1998年のこねっとぶらん

技術支援、運用活用支援の継続

約4万校の(北海道約2700校)に対し、10億円の寄付(1校あたり2.5万円)

アカデミックディスカウント運動の推進

9. デジタル学校新聞の取り組み（事務局 吉田）

・高文連新聞制作部会。留萌高校や開成高校など全国レベルの学校がある。

・毎年高校新聞のコンテストを行っている。ワープロとコピーで切り貼り、年に2回くらい業者に発注してだす。

・年に1回しかいでない...面白くない内容になってしまう。むしろ月に1回するような新聞の方が面白い。

・現在はワープロで縦書きにして切り貼りしている。図版はコピー。

・DTPで新聞制作する。

・高文連石狩支部新聞研究会をACEで行った。～七色の悪夢～

・AdobePageMakerで作成した例を提示。(5人の高校生が制作)

・記事打ち、レイアウト、デジカメで画像を取り入れる→DTPで

・PageMakerだとFileサイズが大きい-これをPDFにする。Fileが小さくなる。

・PDFであれば、ブラウザからも見ることができる。ダウンロードしてローカルで印刷するとカラーでもできる。

- ・デジタル雪まつり新聞の提示
- ・ウェブパブリッシングを意識したつくりになっている。
- ・ハード的な環境があるとデジタル学校新聞が容易に作成が可能である。

是非ここの(札幌の)優れた環境を使って、新たなDTP新聞の取り組みを考えていきたいと思う。

10. オンコの木(武田)

教育関係のサイトがいろいろなところにある。

それぞれが独自に活動していて互いにわからないところがある。

どこにどんな人がいるのだろうか... 北海道の人間地図

これから212市町村に整理していくとわかりやすくなる。

北海道の教育メーリングリストで学校内外の垣根を取り払ってきた。北海道の教育についてここで情報交換していきたい。道内の教育関係のイベントの一覧を作成する。

11. ピピンと個人情報保護のはなし(荒島)

昨年末にずいぶん悩んだのだが、インターネットにかかわるプライバシー保護に関する文書が出た。

いろいろと問題はあがるがこどもの権利条約という視点がかけられているのが問題があると思う。北野台中学校などいくつかの学校では校内規定ができ上がっている。弁護士に相談してつくったようなところもあり、非常に参考になる。これらの共通点であるが、生徒保護者のプライバシーは何が何でも守らなければいけないということである。ホームページに関していうと、公的で生徒本人の承諾を得て流している、ということが大前提となってくる。それ



関谷さんを始め札幌関係の方には大変お世話になりました。

と、責任の所在は基本的に校長が持つ、という認識を新たにしなければいけない。

「自由研究」のホームページをどこかにつけて、部活や作文などの成果を上げていき、リンクを充実させていこうと思っている。有害情報のフィルタリングがずいぶん話題になっているが、整理された文章があるので、上げておいた。これに関してはプロバイダの協力も得ていかなければいけないのでぜひ読んでほしい。

ピピンはとても優秀な機械だった。オラシオンというところからCDをもらったので、ピピンがどういう機械だったかということも含めて見てもらいたくて持ってきた。ピピンは結構教育の現場では使われていて、たとえばmesとかはピピンを使ってコンピュータに親しんでいる。ほしいと思った方はぜひ声をかけてほしい。

(遠路はるばる来ていただいた方の中から...)

北海道教育大学函館校 上谷先生

地域でPPPのアクセスをサポートしている。残念ながら学校単位ではやっていないが、熱心な先生を中心にがんばっているのが現状だ。学校の中では一年はMacintosh、プログラムをしたい人間はUNIXにいてもらう。音楽と美術を主にやっている。今年度に大型の機種更新があるがマルチメディア系はあまりメインになってこない。私自信の個人的趣味でやっているようなものだ。24時間オープンにしていって、成果は少しずつ見えてきている。函館市内の小中学校は非常にクローズな状況だ。

NTT 小樽支店の五十嵐さん

余市の宇宙記念館のオープニングでNASAの毛利さんとフェニックスしてきた。今勉強中なので宜しくお願いします。

東鷹栖中 大阪先生

こねっと校もいくつかあるが、ホームページ含めてあまり盛り上がっていないのだが近くからクリアしていきたい。デジテラに最近集まっている。いろいろな人間が集まっていて旭川のネットワーク環境を盛り上げてゆこうとがんばっている。パソコン部をやっているが、生徒が71人も集まってきて器材のやりくりが大変だ。個人情報の保護に関しては私も悩んでいるところだが、作品や意見をせっかく上げる機会があるのでどんどん活用していきたい。旭川で公式に個人情報保護の文書などは回っていないがきちんとやっていきたいと思っている。

このあと、西岡のつば八に移動をし、これまた盛大な懇親会が催されました。つば八じゅうのビールとワインを飲み干さんばかりの勢いで盛り上がり、久々に顔を出してくれた吉村前事務局長は乗り遅れていました。その後は大酔っぱらいのまま武田支部長宅とかギョーザ屋とかに乱入して暴れたそうです。

システム管理者地獄変

標茶町立標茶中学校

村田 城司

標茶町の小中学校のシステム管理者をやっている村田です。わずか16校とはいえ、複数の学校を相手にしていると、色々なトラブルも起こります。その中でも、とっておきのイヤーンなトラブルの数々をお話しましょう。学校にInternet系が導入されつつある現在、いつ皆さんの身に同じような不幸が降り掛からないとも限らないのです...

第1話「くふう」

MN128-SOHOは色々遊べるわりには(PIAFS対応など)結構値段も安いということで、使ってる人も多いと思います。今でこそ低価格ダイヤルアップルーターは星の数ほどありますが、標茶町が導入を計画していた時期はMN128-SOHOしか選択肢がありませんでした。

ところがこのMN128-SOHO、連続運用してみると思いがけないトラブルが起こるのです。

○時々止まってしまい、電源スイッチをon/offしないと復帰しない → どうやら熱暴走らしい

○電話を接続したまま切れない場合がある

これらの現象については他にも確認されているところがあるようです。前者はともかく、後者はかなり致命的です。ある学校では2日、ひどい学校では3日もつながりっぱなしでした。しかも連休も含まれていたのに、誰も使わないまま接続されっぱなしだったというわけです。NTTが通知してきて真っ青(^;)。

で、なんとか外部から MN128-SOHO をコントロールできるようにすることにしました。幸いにして、MN128-SOHO は telnet で動作をコントロールできます。ということは、perl で適当にスクリプトを書けば実現できそうですね。Internet 上を探すと同じことを考えていた人がおり、その人のスクリプトを改造して

○夜になると強制的に接続を切る
○ MN128-SOHO の log をメールで私のところに送る

これによって、連続接続事件は起こらなくなりました。また、各学校でどのくらい Internet に接続をしているのかもモニタできるようになりました。このデータを教委に報告するのも私の仕事になりました。主として電話代チェックのためです。

で、副産物として各学校がどこに FAX してるのかもわかるようになってしまいました(^;)。MN128-SOHO には FAX もつながってるので... まあ、公費で通信してるわけだから、モニタされても問題はいいはずですね。

例:ある学校の log

料金の log

相手先電話番号 : 01548*****

接続時間 : 50 時間 50 分 22 秒、計 : 11510 円

相手先電話番号 : 03548*****

接続時間 : 0 時間 43 分 25 秒、計 : 920 円

通信記録の log

0*/23 09:42:57 ルータ発信[B1]: 番号[01548*****]

トリガパケット[TCP ***.***.*.*/1703 --> ***.***.***.*/ftp]

0*/23 09:43:01 PPP[B1]: LCP up

0*/23 09:43:01 PPP[B1]: IPCP up

0*/23 10:17:44 こちらから切断[B1]: 料金[120 円]

0*/23 10:17:44 PPP[B1]: LCP down

という内容のメールが毎日私のところに届くわけです。「オレってばひょっとして神がこの世に遣わした天才(以下 30 万行省略)」と思っていました。ところが...

次号に続く 刮目して待て!

ACE 田中の燃える男のトラクター連載 2 「経営シミュレーションゲーム」

IIJ 札幌支店 田中 真一

最近のシミュレーションゲームは身近な題材をベースにした作品が多く見受けられる。それもなかなかリアリティ溢れる秀作がヒットしているのだ。特に経営に関するゲームは大人も充分楽しめる内容だ。コンビニエンス店やレストランの経営者となり売り上げを伸ばしていくことが目的であるが、顧客ニーズを

見極めた仕入戦略や他社の動向を探るなど実に見事に通常ビジネスを反映させた出来となっている。

逆に言うならば、ビジネス戦略等をある程度理解していなければ勝ち進めないのである。一般サラリーマンは経営者の視点を、学生は社会の厳しさをと各々学べる素材である。経済事情が必ずしも明るいとは言えない現状だが、こういう時にこそ是非「仮想体験」を積んで明日の糧にしたい種のゲームといえよう。

この種のゲームは今に始まったものではないが、見た目の楽しさや作り上げていく過程をビジュアル的に見れるなどがあり自分の成果や失敗が見易くなっている工夫がなされている。こういったゲームを通しての社会教育や OJT がもっとあっても面白いかもしれない。会社を経営されている方でも果たして勝ち進めるかどうか興味あるところだ。最近の経営シミュレーションゲームもそのぐらい現実味ある内容になっている。パソコンゲームとは言え決してあなどれない。

編集後記

貸出機を箱から出してメモリ入れて埃払って箱に入れて倉庫に行って...を繰り返していたらギックリ腰になりました。(吉田)

ういんどうずをマックで漢字変換すると「ウインドウ図」となります。マックにはファンクションキー(F7)がないのに癖で7キーを押してしまう。この文章もマックで書いてます。僕は立派なマックユーザさ。(田中)

4月研究会にはひさびさに30人を超す参加者が集まりました。これまでなかなか会えなかった地方の先生、そして企業の方も多くみえ、その場での新入会が4名も。昨年からこねっとやバーチャル雪まつりを通して、新しい人との出会いが増えていきます。なぜか例年春の研究会は盛況なのですが、ここでのつながりを大事にして、教育に命を燃やす集団のネットワークを更に拡大するぞー!(青柳)

フォーラムと名前を変えた研究会も盛会のうちに終わることができました。参加してくださった皆さんありがとうございました。今回これなかった皆さん、次回お会いしましょう。さて、産業界からの強い要望が追い風となり学校のインフラ整備にもようやく光がさしてきた感のある昨今ですが、札幌にはまだまだ北風が吹きすさんでいます。ここでめげては今までの苦労が水の泡...。研究会の席上でもお話ししましたが、「北海道の自由研究広場」を真剣に進めようと決心しました。構想がかたまりしだいWebでもアナウンスします。その際には多数のご賛同とご参加をお願いします。(荒島)

地域の住民のセンターは今も昔も学校です。子供とおじいちゃんの生活・活動範囲は同じ地域です。NPOで地域活性化しましょう。ボランティアの心は、「自主性」と「主体者意識」です。地域のNPOでボランティアの王様は、「PTA」なのです!この春、「札幌市立西岡小学校父母と先生の会会長」を仰せつかりました。あじゃー!どうぞ、よろしくお願いいたします。そうだ、富山県山田村の次は、西岡だ!皆でPTA活動に参加しましょう!教育に新しい視点。それは、地域と父母の視点です。(武田)

教育とコンピュータ利用研究会 北海道支部

1998年4月27日発行